

東日本を代表する細竹（篠竹、鈴竹、根曲り竹）の  
加工技術の習得及びその材料を使用した籠の制作



杉 浦 功 悦  
(別 府 竹 細 工)

# 目 次

1	研修概要	1
2	研修日程	2
3	はじめに	3
4	竹材について	
	(1) 篠竹	4
	(2) 鈴竹	5
	(3) 根曲り竹	6
5	研修報告	
	(1) 篠竹に関する研修	
	a 材料加工技術について	7
	b 岩出山伝統ざる(12本ざる)の作成	8
	c 竹の伐採について	9
	d 岩出山竹細工祭り	10
	(2) 鈴竹に関する研修	
	a 材料加工技術について	11
	b 竹製品について	12
	(3) 根曲り竹に関する研修	
	a 長野県戸隠地方の視察(9.23~9.27)	13
	b 北海道蘭越町の視察(12.11~12.16)	14
	c 青森県岩木町植田地区の視察(11.6~11.8)	15
6	研修を終えて	16

## 1 研修概要

### (1) 主題

寒冷地における小径竹（篠竹・鈴竹・根曲り竹）の加工技術の研究

### (2) 目的

別府竹細工の特徴である、真竹とは違う上記3種類の小径竹の材料加工方法を研究し、また材料の入手方法を確立し、今後の竹細工創作活動の幅を大きく広げていきたい。

### (3) 研修期間

- 前期 平成19.9.1～11.18
- 後期 平成19.12.2～12.21

### (4) 主な研修先

- 宮城県大崎市岩出山
- 岩手県一戸町鳥越

## 2 研修日程

前期日程 平成19.9.1～11.18

年月日	滞在先	内容
9.1～9.18	宮城県大崎市岩出山	・篠竹の材料加工技術の習得及び伝統ざるの作成
9.19～9.22	関東地方	・日本伝統工芸展見学 ・飯塚家三代(故人)竹工芸展見学 ・田辺小竹展見学
9.23～9.27	長野県戸隠村	・根曲り竹細工の見学
9.28～10.31	宮城県大崎市岩出山	・篠竹の材料加工技術の習得及び伝統ざるの作成 ・竹細工祭りへの参加
11.1～11.5	岩手県一戸町鳥越	・鈴竹の材料加工技術の習得
11.6～11.8	青森県岩木町植田	・根曲り竹細工の見学
11.9～11.18	北海道札幌市周辺	・小樽・余市地区の根曲り竹細工の見学 ・竹民具にかかわる博物館等の見学 旧余市福原漁場(ニシン番屋) 北海道開拓記念館 木工芸デザインスタジオ島田見学

後期日程 平成19.12.2～12.21

年月日	滞在先	内容
12.2～12.6	宮城県大崎市岩出山	・篠竹の竹伐りの実地研修
12.7～12.10	岩手県一戸町鳥越	・鈴竹材料加工技術の習得 ・鈴竹感謝祭への参加
12.11～12.16	北海道蘭越町	・根曲り竹材料加工技術の習得及び製品の見学
12.17～12.21	宮城県大崎市岩出山	・篠竹の竹伐りの実地研修

### 3 はじめに

わたしは、別府竹細工に10年間携わり、その技術習得に励んできました。別府竹細工の特徴は、材料に関しては主に真竹(まだけ)で、その他には黒竹や虎竹などの色や斑模様が入った竹を使うのですが、これらは今回の研修対象の竹とは違い、大径竹ともいべき竹で直径がおおよそ40ミリ~100ミリの竹です。

別府竹細工は、こういった竹をひご(薄く剥ぎ、細くさいた材料)にするのですが、作る籠の用途や編組技法(編み方:何十種類もあり、別府竹細工はこれら多種の技法の研究に特徴がある)により、ひごの厚さ(0.2ミリ~1.2ミリ程度)、ひごの幅(0.8ミリ~2.5ミリ程度)、ひごの長さ(20センチ~4メートル程度)を用途に応じて材料加工していきます。

しかるに今回の研究対象である小径竹は、細くて短いこと、節の間隔が短いこと、目下(節から出る竹の枝の目)がひご通りの邪魔になることなど、大径竹とは違った材料加工方法が必要になるのですが、材料の質感(丸みや表皮の手触り、光沢など)や竹の柔らかさの違いにより、大径竹にできないような編みができることなど、今後の創作活動を広げてゆくのに欠かせない素材として、研修に臨みました。

## 4 竹材について

### (1) 篠竹(しのたけ)



p.1 伐った篠竹を干しているところ

矢竹(やだけ)に近いますぐに伸びる竹で、長さは2メートル強、直径は7ミリ~15ミリぐらいの竹です。この竹を使った竹籠の産地は、今では宮城県の岩出山ぐらいがありませんが、ここでは1年目の柔らかい竹を12月に根雪になる前に、山から伐りだします。あまり早い時期に伐ると乾燥させたときに、竹がしぼんでしまい、材料として使えません。

調べた範囲で、岩出山以外の産地では(現在は無い)2年目以上の硬くなった竹を使い、籠を作ったそうですが、岩出山とは違う用途の籠だったようです。

## (2) 鈴竹



p.2 鈴竹を切っているところ

フク(竹の皮)がびっしりと竹の桿(幹の部分)を覆う真っ直ぐに伸びる竹で、長さは2メートル弱、直径は5ミリ~8ミリ程度で、小径竹のなかでも最も細い竹です。

この竹を使った籠の産地は岩手県の鳥越ですが、静岡県付近にも産地があるようです。

この竹は、篠竹同様1年目の竹を使いますが、籠の縁を巻く竹は特に柔らかい竹が必要で、9月ごろ竹山に入って竹を切りますが、編み竹は、11月から12月にかけて根雪になる前に竹を伐るようです。冬の竹伐りも大変ですが、9月の竹伐りはハチやアブに刺されたり、へびに遭遇したりともっと大変だそうです。

表皮につやがあり、とてもきれいな竹ですが、別府のような暖かい地方では、竹の保存が難しく、伐った竹をすぐフクとりして2つ割りにして、うまく乾燥させないと、竹にしみができてしまいます。現地では、伐った竹にござ等をかぶせて、雪の下に置いておけば、冷凍保存状態となって、フクがついたままでも、きれいな状態で一冬竹が保存できるそうです。



### ( 3 ) 根曲り竹



p . 3 伐って束にした根曲り竹

山の斜面に根元から円弧状に曲がった状態で生える竹で、長さは2メートル50センチ程度、直径は7ミリ～20ミリくらいで、少し癖のある竹です。

竹細工の産地としては、長野、福島、青森、北海道などにあります。産地によって竹伐りの時期は一概にいえませんが、縁巻き用の柔らかい竹は9月ごろに1年目の竹を伐り、編み竹用は、根雪になる前に山から伐るようです。(ただし、1年目の竹に限らず、2年目以降の竹でもよい。)

この竹は、山菜としてたけのこが食べられるので、長野の戸隠では、竹細工用の竹を伐る場所を決めておいて、たけのこの季節になると、竹の職人さん達が、寝ずの番で交代で竹林を見張るそうです。

この竹も表皮に独特のつやがあり、大変きれいな竹ですが、鈴竹同様、暖かい地方では保存の方法に注意しないとけません。



## 5 研修報告

### (1) 篠竹に関する研修(宮城県大崎市岩出山)

#### a 材料加工技術について

材料は昨冬伐って乾燥してあるものをわけてもらい、使用しました。

作業手順は、大まかに、

フク(竹の皮)落とし

竹を半割り(根元を少しつなげておく)

水槽で竹を数日ふやかす  
(季節により日数が変わる)

竹を4つ割り  
(太い竹は8つ割りすることあり)

竹を口剥ぎ

幅取り



p.4 岩出山の作業場風景



p.5 篠竹の製品

となります。真竹との加工技術で特に違うのが、の口剥ぎで、材質がまったく異なり剥ぎのこつが違うので、それを体で覚えるために、繰り返し材料取りの練習をしました。

道具に関しては、別府のものと比べると、竹割り包丁、幅取ナイフなど多少違う部分もありましたが、基本的な作業は同じなので、特に問題なく作業に取り組むことができました。

竹の目下(節のところからはえる枝の目)に真っ直ぐ真ん中に割りをいれることと竹の先から元まで竹の幅を揃えて剥ぐ(すなわち同じ厚みで剥ぐ)ことが難しかったけれども、繰り返し練習して、技術を習得することができました。

## b 岩出山伝統ざる（12本ざる）の作成

岩出山の竹細工は、生活に根付いた米ときなどのざる製品が主力であり、大きさや形に規格が決められています。大きさにより8つほどある規格のうち、縦ひごに使うひごが12本のものが技術的にみて、基本的だということでそれを作成することとしました。



p.6 12本ざるの底編み

ざるを作るために、

- ・ 縦ひご（網代底編み用）
- ・ 7廻しひご（四角い底編みを徐々に円形にするための柔らかい薄いひご）
- ・ 横廻しひご（かごを起こしてから縁止めの手前まで使う主要なひご）
- ・ 縁止めひご（縦ひごを折り返して留めるひご）
- ・ 縁輪竹（この竹は真竹で作る）
- ・ 縁巻きひご（縁を巻きとめるひご）
- ・ 力竹ひご（かごの強度を保つひご）

これら7種類のひごを使います。

このざるを作ることにより、篠竹の材料の選別（硬いとか柔らかい、あるいは使う竹の太さなど）、あるいは使用するひごの柔らかさを体でおぼえ、今後の創作活動のための基本的な材料の性質を理解することができました。

### c 竹の伐採について

岩出山の竹細工の現状として、高齢の従事者が多く、材料の手配については、基本的に自分で山に入って自分が使う量の竹を確保しています。竹を伐って販売するような業者はおらず、私も岩出山の皆さんと一緒に竹伐りすることで、その作業になれ、今後の材料の確保ができるようにしました。

すでに述べたとおり、12月に入ってから根雪になるまでに、1年分の竹を伐りだすので、毎年天候によっては必要な分の材料が取れないこともあるそうです。どうしても足りなかった時は、年を越して雪解けしたときに材料伐りをすることもあるそうです。



p.7 篠竹を伐っているところ

山に入って感じたことは、竹伐りがいかに重労働であるかということです。基本的に竹は斜面に生えていて、密生しているところを、1年目の竹を選んで伐り、適当な何か所かの場所に伐った竹を集めておいて最後に竹林の中から道に竹を引っ張り出すのですが、水分をたっぷり含んでいるので竹が重たく、また藪にひっかかったりするので、慣れないと本当に大変でした。

#### d 岩出山竹細工祭り

10月27日に、竹細工の魅力を一般の方  
に感じてもらい、販売につなげていこうとい  
うことで、鳴子温泉郷に近い、人の入りの多  
い「池月道の駅」にて、竹細工祭りに参加す  
ることになりました。

私は、別府の竹細工を宣伝するというので、  
材料の真竹を岩出山の方から供給してもらい、  
かざるまや盛籠、菓子皿などを作って出品し  
ました。

今回、研修に出て、数多くの竹細工産地をま  
わってみて感じたことは、製品の価格が作り手  
からみて異常に安いということです。例えば、  
今回岩出山で作った12本ざるが上代で35  
00円程度で、ほとんど30年前から値段が変  
わっていないということでした。

昔は、このざるを1日3個作れば、それで十  
分生活ができたということでしたが、今ではそ  
ういうわけにはいきません。ということで、現  
状、竹細工を仕事としてやろうという若い人は  
ほとんどおらず、今後10年もたったらどうな  
るのだろうかという心細い状態です。

自分にとっても、今後どういった竹細工をめざしていくのか、という1つの問題提起にな  
りました。技術を学ぶのには、昔からの伝統的なものを作ることに大いに意味がありますが、  
やはり新しい製品を作っていないことには将来がないように感じました。



p. 8 竹細工祭り風景



p. 9 自分のブース

## (2) 鈴竹に関する研修(岩手県一戸町鳥越地区)

### a 材料加工技術について

材料は、今冬に伐ったばかりの生竹をわけてもらい、材料加工をおこないました。作業手順は、

フク(竹の皮)落とし

竹を半割り

竹を4つ割り

竹を口剥ぎ

幅取り

うらすき



p.10 鳥越作業場風景

となります。作業手順は、篠竹のときとほぼ同じですが、厚みの薄いひごを使うこと(網代編み用)が多いので、うらすきの作業が最後に加わります。

フク落としは、水分を含んだ状態の生竹を竹割包丁を使って、竹に傷が付かないよう、こすり取るようにして落としていくのですが、竹が傷つきやすいので、刃物の角度の当て方に注意を要しました。



b 竹製品について

竹表皮の美しさを生かした、網代編みによる弁当箱をはじめとするふたものに特徴があります。竹の柔らかさとあいまって心地よい手触りに感心しました。

私も、別府にて真竹を用いた網代編みのふたもの籠を得意としていますが、同じ 網代編みでも、鳥越のものは違って、伝統的な独自の模様が入っていて、興味深くかごを見せてもらいました。



p . 1 1 鈴竹製品



### (3) 根曲り竹に関する研修

#### a 長野県戸隠地方の視察(9.23~9.27)

自分が視察した、各地における根曲り竹細工の中でも、最も盛んな地域でした。それでもプロの職人さんは10名程度だそうです。

その中で、戸隠の竹細工センターにいらした渡辺周運さんの作業と手力屋の中川綱昌さんの作業を見学させていただきました。

戸隠で印象に残ったのは、ここがそばの里であり、そばざるが実用品として、数多くあるそば店で地元の職人さんが作った製品が使われていたことです。そばざるは、円形の平らな形が特徴的で、その下に水を受ける皿を置いて、使用されていました。

夕方になって、そば店が店じまいになると、いたるところで洗われたそばざるが外に干されている光景が印象的でした。

この時期、ちょうど縁巻き用の1年目の竹の伐採が行われていて、竹が乾燥すると材料が割りにくくなるので、2,3日前伐ったばかりの竹を、中川綱昌さんのところではひごにする作業を見せていただきました。みごとなたさばきで、てきばきとひごにしていく手際には、大変感心させられました。



p.12 渡辺さんによるざる編み



p.13 中川さんの作業風景

b 北海道蘭越町の視察（12.11～12.16）

北海道では蘭越町だけでなく、山野のいたるところに根曲り竹が群生していて、かつては、その竹を使って手かごやちゃわんかご、めかご、ざる等、日常生活用具としてのかご作りがさかんにおこなわれていたということです。

現在では、その需要も減ってきており、竹細工をする人も少なくなりました。そういったなかで、蘭越町では郷土の文化として、その技術を伝承していこうということで、毎年冬期間に町民の人たちが集まって、竹細工の研究が行われています。

10月中旬から11月にかけて、竹取作業をするそうですが、今年生えた1年目の竹は縁巻き用に、2年目以降の竹は編み竹用として同時期に一緒に伐りだすそうです。

皆さんが作業する中、自分もひたすら竹の割り剥ぎをさせてもらいましたが、鈴竹、篠竹と比べて、竹が太く根元が曲がっていたりと、竹割の感覚は大分違うものでした。



p . 14

蘭越町（らぶちゃんホール）作業風景



p . 15 根曲竹の製品

c 青森県岩木町植田地区の視察（11.6～11.8）

訪問した時期は、ちょうどりんごの収穫時期で、周辺は岩木山を背景に、たわわになったりんごの木がたくさんあり、印象的な景色でした。

この地区では、特にりんご収穫用の六ツ目籠が昔から大量に作られており、実用的に頑丈な作りをしているところに感心しました。

三上竹製品センターの三上幸男さん宅の倉庫をみせていただきましたが、そこに積み上げられたりんご収穫用かごの山は圧巻でした。



p . 1 6 三上幸男さん製品見本

## 6 研修を終えて

約3ヶ月間の研修でしたが、あっという間に終わってしまいました。当初の目的どおり、小径竹の篠竹・鈴竹・根曲り竹を研究し、材料加工について十分技術を身につけることができました。材料の入手に関しても、今回の研修によって、現地の方々と親密になり、今後も交流を続けていくことで容易に入手できることになりました。

今後は、これらの材料を生かした創作活動を行っていくわけですが、真竹とこれら竹を組み合わせたりすることで、自分の作品に幅を広げられると思います。また、竹という素材を通して、各地方の職人さんたちと今後もお付き合いできるということが、自分にとっての一番の財産になったのではないかと、思いました。

最後に、今回の研修にご尽力をいただいた、九州電力株式会社の皆様、快く研修を受け入れて下さった宮城県大崎市岩出山、岩手県一戸町鳥越をはじめとする各竹細工の産地の皆様に、深く御礼を申し上げます。

平成20年度研修生

杉浦 功悦